

第8回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 平成29年11月17日(金) 19時～21時30分
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター多目的ホール
- ◇参加者 圓山・大西(飛鳥小)、山方・三木(都跡小)、池見(大宮小)
河野(附属小)、中澤哲(平群北小)、新宮(平城小)、石原・大田・三宅・八木・
本間・御田・金(富雄第三小中)、蔵前(真美ヶ丘第一小)、島(郡山西小)
北村(御所市教育委員)、中澤敦(きんき環境館)、樫原(日本ESD学会)
池上・栗谷・春日(奈良教育大学生)
宮下・吉川・中澤(奈良教育大学)

計26名

◇内容

1. 「インスタ映えしなくたってESD

～もうひとつのESDの授業を創ろう」

講師：奈良市富雄第三小中学校 校長 石原 伸浩 氏



- ・ESDは先行き透明な時代の中、よりよい社会をつくっていく教育
- ・9年生へのメッセージ「これからの社会に必要な力」
「ヒカルの碁」囲碁でコンピューターが人に勝つにはまだ100年かかると言われていたが、15年後には、碁のチャンピオンがコンピューターに負けた。時代の変化は加速度的である。
- ・AIの発達によって、自分で学習するコンピューターが生まれてくる可能性もあるが、教育もロボットが担うようになるのか？
(1) 新しい職業ができてくる。そのためにはどんな勉強することが大切なのか？
 - ①奈良市立一条高等学校、藤原校長
 - ・コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ロジックする力、シミュレーションする力、ロールプレイングする力 が必要になってくる(より)
 - ②経産省が提唱している社会人基礎力
「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」
「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)より構成
 - ③国際バカロレアがめざす10の学習者像(国際的視野を持った人の育成)



探究する人、知識のある人、考える人、
コミュニケーションができる人、信念
をもつ人、心を開く人、思いやりのある
人、挑戦する人、バランスのとれた人、
振り返りができる人

④ ESDで育みたい力（6つ）

持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）、代替案の思考力（批判力）、データや情報の分析能力、コミュニケーション能力、リーダーシップの向上

①～④を比較すると、共通する部分も多いことに気が付く。

⑤次期学習指導要領では

目指すのは「生きる力」の育成

何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるか（生きて働く）、どう使うか まさにESD

・なぜそうなるのか 何のための教育を明確にすることが大切

国際標準な教育を日本でも実施することが目的

・自己実現のために（我的世界）と社会の担い手（我々の世界）。この両方が必要だろう。

・主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 グランプリ作品の紹介「段ボールの椅子」

・教科横断的な視点（違うものを組み合わせる新しい価値を生み出す発想が大切）

・ESDにつながる授業づくり（石戸奈々子）

授業の中で未来を生きるために必要な力を意識することが大切。

10の視点

①学び方を学ぶ、②楽しく学ぶ、

③本物と触れる、④協働する、

⑤教え合い学び合う、

⑥創造する、⑦発表して人に伝

える、⑧プロセスを楽しむ、⑨答

えはない、⑩社会とつながる



2. もうひとつのESD

例えば万葉集で

子どもとの距離感のある万葉集に、楽

しみながら、親しみを増す

何度も読もうとする意欲を形成する

万葉集に込められた作者の思いに

共感し、今風のキャッチコピーに変換

する。過去と未来がつながる



「ヤバいほど好きよ」のポスターを

教材に

超訳のポイント

①発想の転換

②どんな言葉を使うか

③キャッチーに



「恋ひ恋ひて 逢える時だに うるはしき 言尽してよ 長くと思はば」
「わが背子と 二人見ませば 幾許か この降る雪の うれしからまし」
デートしよ
寒さ万歳

私の思いは雪が融けるほど熱い
ゲレンデが融けるほど恋したい
あなたとなら雪の中

いっしょなら あったかいね

○超訳「万葉集」 創作編

- ①題材は万葉集
- ②超訳のポイント 3つ
- ③シカの写真を使って作品化
- ④言葉で加工
花簪を他のものに、～と〇〇しています もあり
- ⑤発表のための作文化



2. ESD学習指導案の検討



(1) 昔から伝わる祭り :

奈良市立都跡小学校 山方 貴順 氏

- ・以前から教材化したいと思っていたネタ「おん祭」
- ・おん祭と身近な祭りの見えない共通点を見出すことがポイント
人びとの願い、保存・継承するための工夫や努力 ここがポイント
- ・ここにポイントを当てた理由
現行の学習指導要領と次期学習指導要領より
地域の生産活動や町の発展、人々のまとまりなどへの願い

・学習方法 2つの祭りを比較する

最も身近に感じることができる祭りと奈良全体の祭
比較を通して「祭り」に対する見方考え方を育てる

大事にした学習：本物にふれる 春日大社の方 都跡自治連合会の方

ゲストティーチャーへのインタビューから、保存・継承に関わる願いや努力・工夫に気づかせる

・ESDの観点

おん祭：五穀豊穰や万民安楽という、時間と空間を超えた普遍的な人々の願いに気づかせること
都跡ふれあい祭り：「街づくり」が目標

- ・自分だけでなく地域や日本全体の生活がよりよくなることを願っているという共通点

世代間の公正と世代内の公正：幸福

- ・予想される児童が知りたくなること

どんな思いで受け継いでいるのか、どんな苦労があったのか

存続の危機はあったのか。それはどのようにして乗り越えたのか。

・祭りの準備など、普段なにげなく見ているシーンから、その中に込められている思いをさぐる。

【質疑応答】

・この実践は、ふれあい祭りの後に実施したのか？

ふれあい祭りは9月にあった。毎年開催されているふれあい祭りは児童にとってなじみのあるものであるので、9月に開催されたものを、今、思い出して学習するのは支障がない。それよりも、おん祭りが12月17日に開催されるので、その前に実践しようと考えた。

・祭りの企画運営者の思いについて考える学習へ偏っているが、参加者の思いも聞き取る必要があるのではないか。

祭りは運営側だけで成り立つものではない。開催しても参加者がいないようでは祭りにならない。運営側と参加者の相互作用で祭りは盛り上がるし、継続されていく。その意味で、参加している人々の思いを聞き取ることは重要だと思う。今のところ、保護者からの聞き取りを予定している。

・おん祭は800年以上続いている神事であり、ふれあい祭りは歴史も浅く、目的も違う。「祭り」として同じように比較してもいいのだろうか。

神事と行事の違いは意識して授業実践していく必要がある。ただ、祭りという行事は教材であり、その裏にある「見えないもの」を見ようとする態度を養うことを目的としている。「見えないもの」を見ようとする見方・考え方はすべての社会科の学習に転用できる力だと考えている。

・学習後の行動化のアイデアについて

低学年を対象としたイベントを企画運営する

次年度のふれあい祭りについて、提案したりお手伝いを申し出たりする

ふれあい祭りに込められた願いを保護者や地域の方に伝え、参加者増に貢献する

祭り（ふれあい祭り、おん祭り）に参加する

おん祭りに来られている方々に、おん祭りに込められた願いを教えに行く

